

プライバシー同意におけるデフォルト効果と提案者への信頼感

○平田栄之介¹・上市秀雄²
(¹筑波大学大学院システム情報工学研究群・²筑波大学システム情報系)

s2620527@u.tsukuba.ac.jp

背景

- ・**デフォルト効果**は、ある選択肢が事前に選択されていると、その選択肢が選ばれやすくなる現象である（Thaler & Sunstein, 2008）。多くの領域で大きな効果が頑健的に見られる（Jachimowicz et al., 2019）一方、効果が強まる/弱まる条件については整理が不十分な部分も大きい。
- ・この効果が活用される身近な場面としてプライバシーデータの提供がある。初期設定の違いが利用者の選択に影響を与えている。
- ・また、**提案者への信頼感**が影響することが指摘されており（Kuhn et al., 2023など）、提案者への信頼感とデフォルト効果の関係性を検討する意義がある。

課題

- ・プライバシーデータの提供のようなリスクを伴う場面において、提案者への信頼感がデフォルト効果へどのように影響するかの検証が不足している。
 - －先行研究では環境配慮行動を焦点を当てている。
- ・実行しないことを選択できる場面において、提案者への信頼感がデフォルト効果へどのように影響するかの検証が不足している。
 - －先行研究では、行動することは確定したうえでの選択を想定しており、認知的不協和が生じていた可能性が指摘されている。

目的

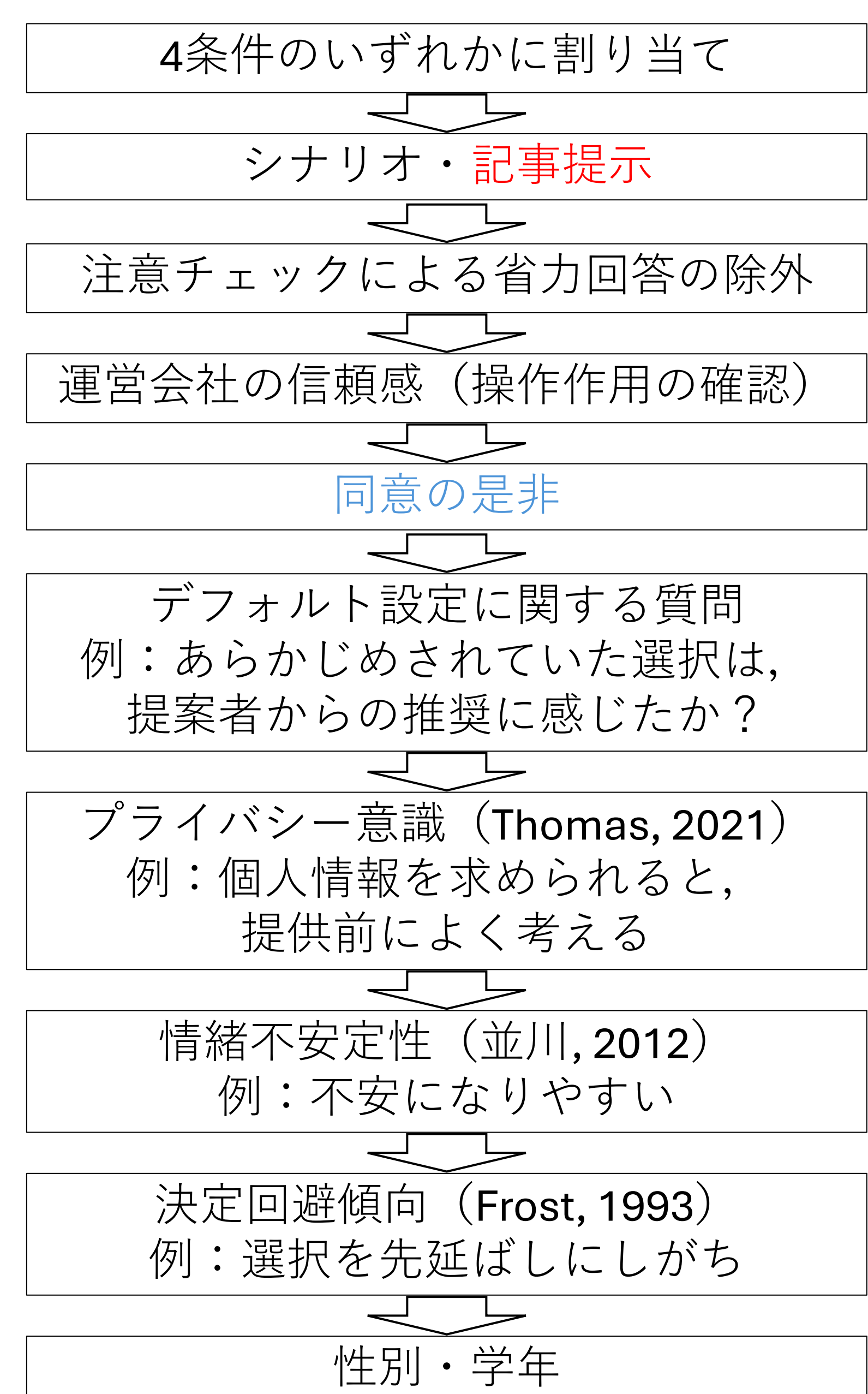
- ・プライバシーデータ提供への同意場面において、利用者が抱くデータ提供を求める企業への信頼感が、同意・不同意のデフォルト設定への追従（デフォルト設定と同じ選択をする）に与える影響を検証する。
- ・また、デフォルト設定への評価など、その心理的過程も併せて検証する。

方法

- ・対象：大学生・大学院生（最終分析対象：男性19名、女性17名、その他/非回答3名）
 - ・調査方法：Google Formを用いたオンライン質問紙調査
 - ・シナリオ
 - 大学生活において、授業連絡や資料配布に用いるキャンパスサポートアプリを導入する場面を設定
 - 初回アプリ利用時に、外部IT企業である運営会社から、サービス改善・最適化のためにアプリ利用データの提供を求められている
 - 信頼操作として、情報管理に関する評価がされた記事を提示
 - ・条件：2×2の4条件（右表詳細）
 - －**信頼条件**：提示した記事
 - 適切と評価された高信頼条件
 - 注意を受けた低信頼条件
 - －**デフォルト条件**：データ提供に同意するかどうか
 - あらかじめ「同意する」が選択されている
 - あらかじめ「同意しない」が選択されている
- 例：同意デフォルト・高信頼条件
【第3者評価：個人情報の扱いが適切】
→「同意する」があらかじめ選択されている
選択肢を提示
- ・分析ツール：SPSS
 - ・分析手法：X²乗検定、Fisherの正確確率検定、分散分析

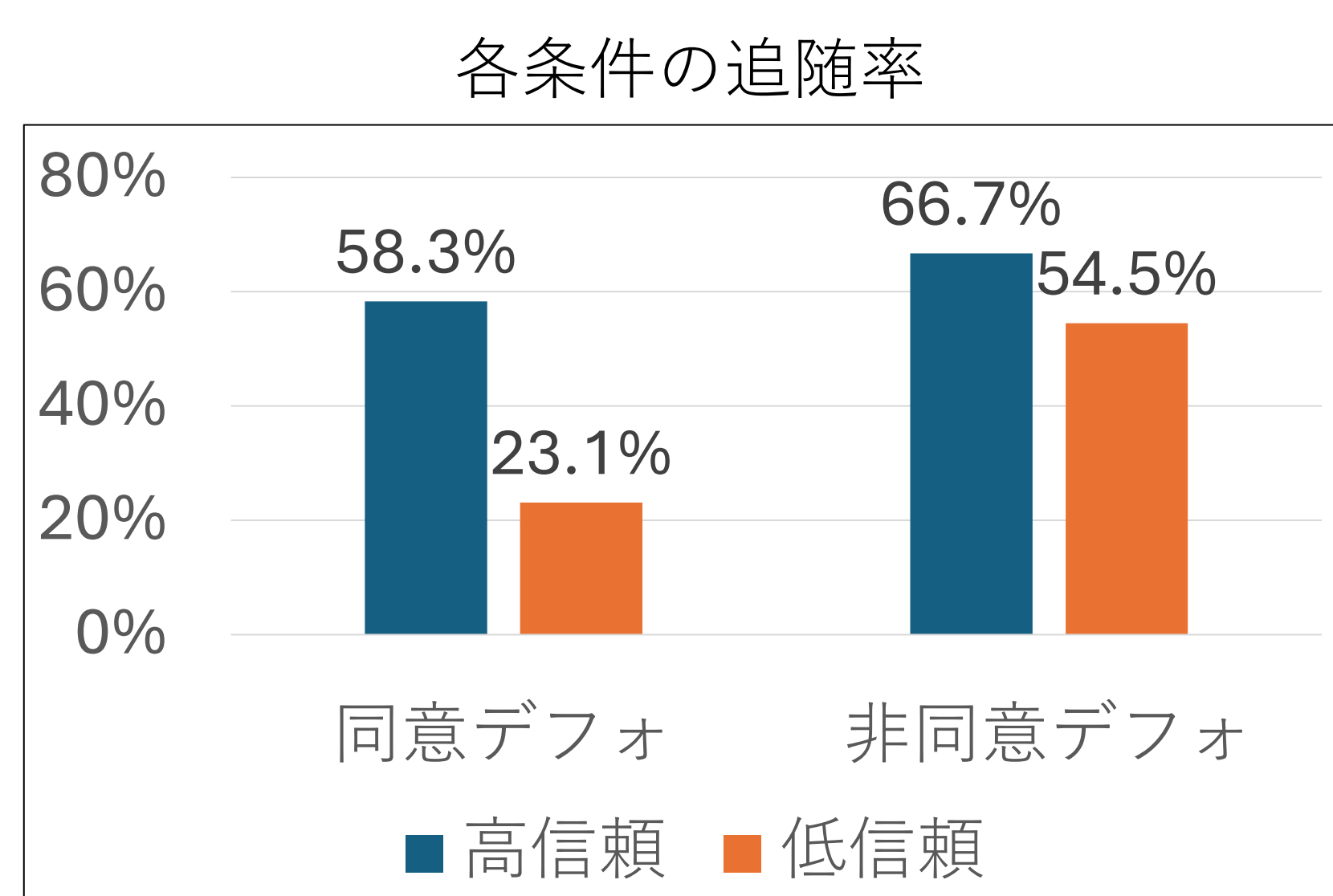
		デフォルト条件	
		同意デフォ	非同意デフォ
信頼条件	高信頼	適切と評価 ●同意する ○同意しない	適切と評価 ○同意する ●同意しない
	低信頼	注意を受けた ●同意する ○同意しない	注意を受けた ○同意する ●同意しない

- ・質問紙の流れ
－主に7件法



結果・考察

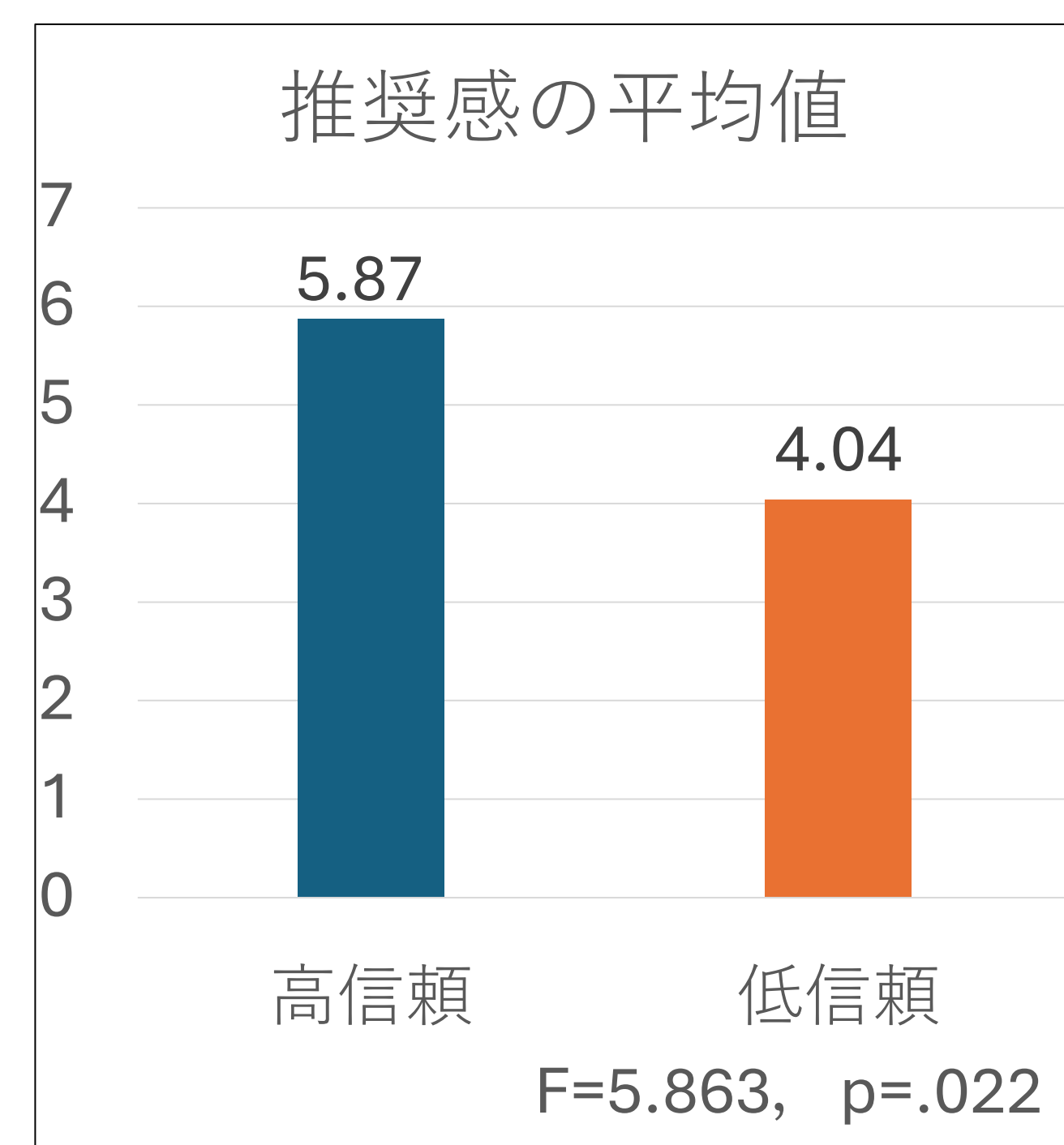
追従率



		各条件の標本数（追従数）	
n		同意デフォ	非同意デフォ
高信頼		12 (7)	3 (2)
低信頼		13 (3)	11 (6)

- ・4条件間の追従率は、上グラフのようになった。条件間で差があるかX²乗検定を行ったが、**有意差は見られなかった**（ $\chi^2=4.322$, $p=.229$ ）。

個人要因



- ・信頼条件間では、高信頼条件のほうが低信頼条件より、**推奨感の得点が有意に高かった**。
→提案者への信頼感が高い場合、**デフォルト設定が推奨のシグナルとなる**可能性

まとめ

- ・提案者への信頼感が高いと、デフォルト設定が推奨として捉えられる可能性が示された。
- ・一方、提案者への信頼感がもたらすデフォルト効果への影響は見られなかった。
- ・標本数が小さく、条件間の偏りもあったため、より大きく均衡した標本で再検証する必要がある。

文献用

- ・ John M. Jachimowicz, Shannon Duncan, Elke U. Weber & Eric J. Johnson (2019). When and why defaults influence decisions: a meta-analysis of default effects. *Behavioural Public Policy*, 3: 2, 159-186
- ・ Sascha Kuhn, John Thøgersen & Florian Kutzner (2023). No trust in the choice architect? No problem! On the minor role of trust for the effectiveness of default interventions promoting the choice of energy-efficient appliances. *Journal of Environmental Psychology*, 91
- ・ Richard H. Thaler & Cass R. Sunstein(2008). *Nudge: Improving Decisions About Health, Wealth, and Happiness*. Penguin Books